

한통련 뉴스레터

제103호

発行:在日韓国民主統一連合(韓統連)
〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284
メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方は chuo@korea-htr.org までご連絡ください。(メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください)

정세 情勢

●広場と野党、尹錫悦釈放に激怒…罷免決定まで緊急総力戦を展開



尹錫悦罷免を要求する韓国市民

3. 1節、13次汎市民大行進など開催

約1700の市民社会団体による連帯組織である「尹錫悦(ユン・ソンニョル)即刻退陣・社会大改革 非常行動」(非常行動)は3月1日、ソウル光化門で「尹錫悦即刻退陣! 社会大改革! 13次汎市民大行進」を「戦争も屈辱外交もなく、尹錫悦もいない3.1節」をテーマに開催し、20万人(主催側推算)が参加した。大行進前には、韓日歴史正義平和行動と自主統一平和連帯(平和連帯)が慶福宮駅前で「3.1革命106周年 歴史正義・平和主権 市民大会」を開催した。

また、「内乱終息・憲政守護 新しい大韓民国 円卓会議」(円卓会議)を発足させた5野党(「共に民主党」、祖国革新党、進歩党、

基本所得党、社会民主党)は憲法裁判所(憲裁)近くの安国駅前で「内乱終息・民主憲政守護 尹錫悦罷免要求 汎国民大会」を共同開催した。

大行進の出発集会でイ・ホンジョン非常行動共同代表(平和連帯常任代表議長)は「未完の解放、分断80年に迎える3.1運動106周年の今日も独立と解放運動は継続している」と強調し、「主権者の力で内乱を終わらせ民主主義と自主、平和、統一の春を早めよう」と訴えた。

非常行動と円卓会議、緊急総力戦に突入

非常戒厳宣言を巡り内乱首謀罪で逮捕、起訴された尹錫悦が8日午後、釈放された。ソウル中央地裁は7日、尹錫悦の勾留取り消しを決定。捜査チームの非常戒厳特別捜査本部は釈放に反対し即時抗告を主張したが、最終的にシム・ウジョン検事総長ら大検(最高検)首脳部は裁判所の決定を受容した。

非常行動は尹錫悦を緊急事態と規定し、早期罷免のための総力戦に即刻突入。8日には光化門で14次汎市民大行進を開催し、結集した30万人の参加者は尹錫悦に激怒し、「尹錫悦を永遠に監獄に閉じ込めろ!」

「シム検事総長は辞めろ！」と一斉に声をあげた。共同議長団は同日から罷免決定が出るまで、光化門で無期限断食ろう城に入り、毎夕、緊急市民集会を開催。また、尹釈放を主導したシム検事総長を職権乱用容疑で10日、警察国家捜査本部に告発した。

野党も早期罷免を要求し緊急対応に入った。円卓会議の5野党は1日に続いて8日にも共同で大会を開催。10日には国会で会見を開き、「拘束取り消し決定に簡単に投降して内乱の首謀者を釈放し、内乱の共犯であることを自白した」として、シム検事総長を職権乱用容疑で独立捜査機関「高位公職者犯罪捜査処」（公捜処）に告発することにした。

非常行動と6野党、共同闘争を決意

非常行動と5野党、正義党は10日、連席会議を開催し、「尹錫悦の罷免と内乱終息、社会大改革のための非常行動・諸政党連席会議 共同立場文」を発表した。共同立場文は△内乱首謀者・尹錫悦を即刻罷免し処罰するために市民と共に最後まで闘う△内乱の徹底した真相究明と処罰、内乱の完全な終息のために固く連帯する△内乱の再発防止のために至急で必須の法制度改善のために協力する△内乱勢力の審判と再執権阻止のために力を集める△差別と嫌悪の政治を排撃し、多様性を尊重し民意を反映する政治を共に具現する△尹錫悦の罷免以後にも市民参与が保障される中で民主主義回復と平和実現、社会大改革を成し遂げるために協力する△以上の共同決意を履行する方案について後続協議を進めるとした。

15日に全国で大規模罷免大会

非常行動は11日、光化門で尹錫悦即刻罷免緊急集会を開催。前日10日には12

万人、この日は15万人が結集した。ソウル・首都圏だけでなく全国から参加した市民、この日から1泊2日の屋外ろう城に取り組む民主労総組合員、そして野党が尹錫悦罷免を要求する声を一斉にあげた。

また、非常行動の代表者130余人はろう城現場で記者会見を開催し、尹錫悦罷免に同意するすべての市民に集会への結集とろう城への参加を訴えると共に、3月15日には全国で100万人以上の規模で尹錫悦罷免大会を推進すると明らかにした。

憲裁は早期に罷免を決定しろ

ソウル中央地裁による尹錫悦の勾留取り消し（釈放）決定は、拘束期間を日数で計算してきた従来の慣例を時間単位に変え、拘束期間が満了したとの判断に基づいた点で、完全に新しい解釈をしたものであり、非常に異例なことである。現場の捜査本部は即時抗告を主張したが、シム検事総長ら最高検指導部は受け入れず、地裁決定をそのまま受容し、尹錫悦を釈放した。現場の反発が続き、広場と野党から釈放への糾弾の声があがる中、最高検は11日、なんと従来どおり日数を基準に計算するよう全国の検察に通達した。今回の事態は尹錫悦のための「ワンポイント特惠」であったことを検察自ら認めた格好だ。尹政権が検察独裁と呼ばれたことを想起させる。内乱同調行為をはたらいたシム検事総長は、責任を取り即刻辞任すべきだ。

尹錫悦と内乱・反乱勢力は釈放があたかも無罪を意味するかのようには喧伝するが、尹釈放と弾劾審判には何の関係もない。憲裁は尹釈放に影響を受けることなく、尹錫悦に対し一日も早く罷免を決定し宣告することだ。それが内乱終息、憲政守護を実現する大道への扉を開く。そのために、広場と野

党は連帯を強化しながら、緊急総力戦・共同闘争を繰り広げ、15日には全国で100万規模の罷免大会を開催するとしている。

●情勢短信

日朝全国ネットなど、無償化措置を求める

2026年度にも高校の授業料が私立を含め無償化される。これと関連し、「日本と朝鮮を結ぶ全国ネットワーク」(日朝全国ネット)と「朝鮮学園を支援する全国ネットワーク」(朝鮮学園支援ネット)は2月28日、国会内で共同会見を開催し、教育機関としては現行制度から唯一除外されている朝鮮高校を無償化拡充に伴い対象とするよう強く求めた。朝鮮学園支援ネットは無償化を求めるインターネット署名を開始した。

※署名サイトリンクは[こちら](#)

韓米軍事演習「フリーダムシールド」展開

韓米両軍は3月10日、朝鮮半島有事を想定した定例の合同軍事演習「フリーダムシールド(自由の盾)」を開始した。演習は20日まで実施される。これに対し、朝鮮外務省は同日、「米韓がわれわれの度重なる警告にもかかわらず、大規模な合同軍事演習を強行しようとしている。偶発的な1発の銃声で、双方の物理的衝突を誘発させる可能性もある先鋭な朝鮮半島情勢を、極限值

全力をあげて尹錫悦の早期罷免をかちとろう。

(3月12日)



誤爆事故によって破壊された民家

以上に引き上げる危険極まりない挑発的な妄動だ」と非難した。また、朝鮮は数発の近距離弾道ミサイルを発射した。一方、フリーダムシールドの野外機動訓練で行う実射撃訓練は、6日に発生した韓国空軍の戦闘機誤爆事故のため実施されないが、合同軍事演習そのものは予定通り強行されている。自主統一平和連帯は2月25日、国防部周辺で、「朝鮮半島の緊張を激化させる合同軍事演習を中止しろ」と声をあげた(ニュースレター前号、情勢短信)。韓統連と韓青は3月6日、米大使館前で合同軍事演習に抗議し中止を要求した(今号、活動報告)。

●【記事紹介】尹錫悦の戒厳クーデター、9カ月間綿密に準備された陰謀

尹錫悦(ユン・ソンニョル)の12.3戒厳宣言は突然の事態ではなく、少なくとも9カ月間にわたる組織的かつ体系的に準備された計画だった。経緯を整理した民プラスの記事(2月26日)を紹介する。(一部省略)

2024年3月、三清洞安家で戒厳の礎石キム・ヨンヒョン、チョ・テヨン、ヨ・イニョンら核心人士と初期に協議

2024年12月3日、尹錫悦とその取り巻きたちは非常戒厳を宣言し、国会を解散し、主要な反対勢力を逮捕しようとの試みを敢行した。

名目は、国会で野党が主導した政府予算の削減と、閣僚に対する弾劾手続きの進行などだった。

しかし、一部で言われるように、「酔っ払ったイノシシにより一朝にして敢行されたもの」ではなかった。少なくとも昨年3月から戒厳は着実に準備されていた。

昨年、第22代総選挙を前にした3月頃、尹錫悦は三清洞安家（安家＝安全家屋、保安対策を施した秘密施設）でキム・ヨンヒョン警護処長（当時）、チョ・テヨン国家情報院長、ヨ・イニョン軍防諜司令官らを集め、時局が憂慮されるとして「軍が乗り出すべきではないか」「非常大権を通じ切り抜けるほか方法がない」と戒厳令の布石を敷いた。

当時、楊平高速道路の不正、高級バッグの授受、医療大乱、チェ海兵隊員殉職の捜査もみ消しなど、尹錫悦政権の不祥事が山積し、総選挙での敗北が確実視されていた時期だった。

総選挙での敗北後に本格化した戒厳準備

6月、腹心の将軍を集め軍部を包摂

4月の総選挙で大敗すると、尹錫悦は戒厳準備により拍車をかけた。

5月頃、尹錫悦は三清洞安家でキム・ヨンヒョンらと食事し、「非常大権や非常措置でなければ、国を正常化する方法はないだろう」と戒厳の意志を固め、6月17日、キム・ヨンヒョンは尹錫悦との食事の場で、ヨ・イニョンら4人の将軍と共に「この4人が大統領に忠誠を誓う将軍ら」として、戒厳に着手する意志を明らかにした。

その頃、北の攻撃を誘導し戒厳の口実をつくらうとの試みが並行した。これは戒厳の細部を企画したノ・サンウォン情報司令官の手帳に「NLL（西海北方限界線）で北の攻撃を誘導」との言葉が書かれていると

ころから、後日確認されたものだ。

ノ・サンウォンの手帳、「NLLで北の攻撃を誘導」

大規模砲撃訓練で衝突を誘発

6月4日、尹錫悦は、北との9.19軍事合意を全面的に効力停止したのに続いて、海兵隊に26日からNLL近くの白翎島と延坪島で海上射撃訓練を実施させた。北が敏感に反応してきたNLL上空での砲撃訓練は、9月と11月にかけて1000発近い規模で行われたが、幸いにも北は一貫して対応しなかった。

8月の初めには戒厳は既成事実となる。

龍山の大統領官邸に集まった尹錫悦、キム・ヨンヒョン、ヨ・イニョンは、民主労総と野党政治家らについて、「現在の司法体系下では、この者らに対してどうすることもできない。非常措置権を使用し、この者らに対し措置をしなければならない」という話を交わした。

8月、民主労総および野党政治家「非常措置で除去すべき」協議

キム・ヨンヒョン国防部長官の指名後、戒厳準備に拍車

続いて8月12日、尹錫悦は戒厳をより着実に準備しようと、当時の警護処長であったキム・ヨンヒョンを国防部長官に指名した。これは彼が退役陸軍中將であり、自分と同じ沖岩高校卒業生のキム・ヨンヒョンをより信用していたことが背景にある。

その過程で、野党が戒厳徒党謀議の疑惑を提起すると、大統領室は「戒厳令準備説は根拠のない怪談」だとする声明を発表したりもした。結局、キム・ヨンヒョンは9月6日、国防部長官に任命された。

10月、防諜司を通じた対北無人機挑発

11月、戒厳文書作成および兵員配置計画

キム・ヨンヒョンは防諜司令部を通じ、10月3日から3回にわたり北に無人機を送り、平壤上空を侵犯し、対北ビラを散布した。絶えず北の武力対応を誘発し、戒厳の名分を築こうとしたものであった。

その後、ミョン・テギユンの部下であったカン・ヘギョン氏が暴露したキム・ゴニミョン・テギユンの選挙候補公認不正が10月にかけて波乱を起こすと、次第に窮地に追い込まれた尹錫悦は、キム・ヨンヒョンに戒厳の準備状況を確認させた。

11月24日に大統領官邸を訪問したキム・ヨンヒョンと会った尹錫悦は「ほんとうに国はこれでよいのか」とし、「正さなければならない。将来の世代にきちんとした国をつかってあげるためには、特段の対策（戒厳令）が必要だろう」と急き立てた。

そこでキム・ヨンヒョンは、パク・クネ政権時代に軍機務司令部（現防諜司令部）が企画した戒厳文書とパク・チョンヒが射殺された10.26事態当時の布告令を参考にし、戒厳宣言、国民向け談話、布告令を作成し始めた。

11月30日、国防部長官公邸を訪問したヨ・イニョンに会ったキム・ヨンヒョンは、「遅かれ早かれ大統領が戒厳をすると決定されるだろう」とし、「国会を戒厳軍が統制し、戒厳司が選管委と世論調査機関などの不正選挙と世論操作の証拠を明らかにすれば、国民も賛成するようになる」と防諜司令部に戒厳準備を指示した。

同日、キム・ヨンヒョンとヨ・イニョンは大統領官邸へ移動し、尹錫悦と対話したが、ここで尹錫悦は「戒厳令を下してこそ、この難局を解決できる」とし、まもなく戒厳令を発令するとの事実を周知させる。

12月1日、尹錫悦が直接、兵力規模および配置計画を確認

12月2日、戒厳宣言文・談話文・布告令を最終承認

翌日の12月1日、尹錫悦はキム・ヨンヒョンと会い、「今、非常戒厳を発令すれば、どのように兵力を動員できるのか」と尋ね、「首都圏にいる部隊から2～3万人程度の兵員を動員しなければならないが、少数だけ出動するとすれば、特戦司令部と首都防衛司令部で3000～5000人程度が可能」と報告を受けた。

これに対し尹錫悦は、警察力をまず配置し軍は幹部を中心に投入する方法を話しながら、「幹部を中心に投入すれば人員はどれほどになるのか」と尋ね、キム・ヨンヒョンは「首都防衛司令部2個大隊および特戦司令部2個旅団など約1000人未満を動員できる」と報告した。

続けて尹錫悦は「その程度の兵力ならば、国会と選管委に投入すればオーケーだ」とし、「戒厳をするため必要なものは何か」と尋ねた。

キム・ヨンヒョンが「第1に戒厳宣言文が必要で、これを閣議の案件として上げなければならない。第2に大統領の国民向け談話文、第3に布告令が必要だ」と報告すると、尹錫悦はこれらの準備を指示し、キム・ヨンヒョンが事前に作成しておいた戒厳宣言文、談話文、布告令を報告した。

尹錫悦はこれらの検討後、布告令に書かれていた「夜間通行禁止」の項目を削除するなどの補完を指示し、翌日の12月2日、キム・ヨンヒョンが内容を補完し、戒厳宣言文、談話文、布告令を報告すると、検討後、「完了した」として承認した。

政治活動の禁止、メディアの統制、医療従事者の強制復職まで含んだ超法規的布告令

そのようにして尹錫悦は、△国会と地方議会、政党活動と政治結社、集会・示威など一切の政治活動の禁止△偽ニュース、世論操作、虚偽プロパガンダの禁止△すべてのメディア出版に対する戒厳司の統制△スト、サボタージュの禁止△研修医ら医療従事者の本業復帰という前代未聞の布告令と共に国会に戒厳軍を投入するに至った。

市民と野党国会議員の素早い対処で戒厳解除案を通過させたため、尹錫悦の戒厳令は結果的に湖に浮かんだ月の影と化した。市民が少しでも躊躇していたならば、大韓民国はもはやわたしたちが知る民主共和国ではなかったかもしれない。

原文

<http://www.minplusnews.com/news/articleView.html?idxno=15887>

활동보고 活動報告

●各地で3.1朝鮮独立運動 106周年行事を開催…日本の植民地責任を追及

東京



報告するチュ・ジェジュン共同運営委員長

「3.1独立運動日本ネットワーク」(3.1ネットワーク)は2月27日、〈～日本の敗戦ー朝鮮解放・分断80年、日韓条約60年を問う〜「非常戒厳」を阻止した韓国民衆と連帯し今こそ植民地主義を清算・日米韓軍事同盟化に反対しよう！ 3.1朝鮮独立運動106周年 2.27東京集会〉を開催した。

3.1ネットワークの渡辺健樹氏が主催者あいさつした後、新潟国際情報大学の吉沢澤文寿教授が「何に抗い、何を守り、育て

るのかー乙巳(1905/1965/2025)年に日朝・日韓関係を考える」と題し講演。日本の朝鮮植民地化について「戦後日本が植民地支配責任を不問とし続けてきたことによって南北朝鮮の分断固定化に寄与した」と指摘。「植民地主義と闘い、分断の克服を目指す民衆連帯を日本と朝鮮でつづけていかななくてはならない」と強調した。

韓国から「尹錫悦(ユン・ソンニョル)即刻退陣・社会大変革 非常行動」のチュ・ジェジュン共同運営委員長(韓国進歩連帯政策委員長)が「内乱首謀者である尹錫悦の罷免と大統領選挙、そして社会大変革」と題し動画で報告。尹錫悦の戒厳令宣布について「国会を武力で無力化させようとした。明白な憲法違反だ」と糾弾。退陣運動の発展について「戒厳令を挫折させたことを契機に退陣運動が急速に拡大した。集会の場では各界各層の老若男女が調和・協力し、互いに学び合う場となっている」と評価。今後の課題として「内乱を早期に終息させなければならない。今後、社会大改革の課題を公然化し、広場で実践していく過程に進むだろう」

と語り、日本からの支持・応援を要請した。

総がかり行動の菱山南帆子共同代表、「韓国オプティカルハイテックを支援する会」の大畑龍次氏が尹錫悦退陣集会参加と日東電工に対して雇用継承を要求する闘争についてそれぞれ報告した。

3月1日には新宿駅前「3.1キャンドル行動」が展開された。

愛知



講演する慎蒼宇教授

「韓国併合」100年東海行動実行委員会は3月1日、名古屋市内で「3.1独立運動106周年記念講演会」を開催した。

法政大学の慎蒼宇（シン・チャンウ）教授が「植民地戦争の視点から日本の植民地責任を問う」と題し講演。

慎教授は「日本では植民地戦争とは聞きなれない言葉だが、朝鮮から見ると1894年の甲午農民戦争から50年間、日本帝国主義と戦ってきた。朝鮮側にとってこの期間は植民地からの解放のための戦争であり、植民地戦争と捉えるべきだ」と指摘。「関東大震災での虐殺は植民地朝鮮での義兵闘争、3.1独立運動などを弾圧してきた日本軍が、朝鮮での虐殺に倣い行われたものだ」とし、過去清算の課題として植民地主義の克服を強調した。

広島



講演する金榮鎬教授

「8・6ヒロシマ平和へのつどい実行委員会」は3月1日、広島市まちづくり市民交流プラザで「三・一朝鮮独立運動から 被爆・敗戦80年を考える」を開催した。

広島市立大学の金榮鎬（キム・ヨンホ）教授が「12・3韓国非常戒厳、日韓国交60周年、原爆80年を考える」と題し講演。金教授は韓国情勢に対する日本の報道について「日本のマスコミは戒厳令直後から尹錫悦大統領を支持するような主張を繰り返しており、自分たちに都合良く報道している」と批判。

日韓国交正常化60年については「尹政権下において日韓関係は反共を基調とする冷戦時代の体制に戻ってしまった」と分析。「一方で韓国は朝鮮を脅威と感じつつも、南北協力は重要なことと捉えている」とし、世論調査結果を紹介した。

原爆80年・朝鮮戦争開戦75年を迎える今年の課題としては「米朝首脳会談で朝鮮半島の核問題が北の核問題にすり替えられ、朝鮮戦争終結も実現せず、軍事的緊張が激化している」とし、「原爆80年・朝鮮戦争開戦75年の節目の年。みなさんの反戦反核の取り組みがとても重要だ」と提示した。

●長生炭鉱の遺骨収容、政府交渉・報告会を実施…遺骨の収集、早期返還をアピール



報告する「刻む会」のメンバーたち

1942年2月、海底坑道の水没事故で183人の労働者（朝鮮人136人、日本人47人）が犠牲となった長生炭鉱（山口県宇部市）で、遺骨収容に向けた調査をしている市民団体「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」（以下、刻む会）は2月28日、超党派の野党議員と共に厚生労働省と外務省に対し同炭鉱の遺骨収容に関する交渉に臨んだ。

交渉後に参院議員会館で開催された報告会では、刻む会のメンバーと共産党・小池晃、社民党・福島みずほ、大椿ゆうこ参院議員らが報告。刻む会の井上洋子共同代表が、厚生労働省に対して予算や技術面での支援を、外務省には収容を韓国との共同事業に位置づけることなどを要請したが、両省の担当者はそれぞれ「安全性に懸念があり、対応可能な範囲をこえている」「遺骨の早期返還は重要。可能な限り対応するが、安全性に懸念がある」と答えたと報告した。刻む会をはじめとする市民と議員、メディアの協力で遺骨の収容と遺族への返還を実現しようと意見を集めた。

刻む会では3月中旬に障害物の撤去を、4月1～4日に新たな潜水調査を行う予定。

●米国大使館前で韓米合同軍事演習に抗議…韓成祐委員長がアピール



アピールする韓成祐委員長

韓統連・韓青は3月6日、韓米合同軍事演習「乙支フリーダムシールド」（10日～20日）に抗議する米大使館前抗議行動に参加した。主催は「資本主義を超える新しい時代を拓く反戦実行委員会」。

韓国から民主労総のキム・ウニョン慶北

本部長がオンラインでアピール。キム本部長は空軍による誤爆事故について糾弾しながら「尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領が権限停止という状況下にもかかわらず米国は戦争演習を強行した。これは、韓国の次期政権がどうであれ、韓国政府は米国のもと対中国包囲網の先兵になれというメッセージだ」と批判。「わたしたちの闘いによってはじめて平和を勝ち取ることができる。勝利の日までともに闘おう」と語った。

軍事演習に反対する各団体からアピール。韓青中央本部の韓成祐（ハン・ソンウ）委員長は「今回の軍事演習では米軍の戦略資産が投入された。分断という不安定な状況であるにもかかわらず危険な核戦争演習が強行されることに対し、強い憤りをおぼえ

る」と強調。「米国の支配と干渉を退けない限り、韓国社会に平和は訪れない。尹錫悦罷免を契機としながら、韓国民衆とともに韓国社会の民主化、民族の自主化のための社会大改革を実現していきたい」と語った。

参加者全体でシュプレヒコール。大使館に向けて「米韓合同軍事演習を中止しろ」「戦争挑発をやめろ」と訴えた。

●大阪で韓日民衆連帯アクションを開催…尹錫悦罷免を要求



アピールする金昌範代表委員

韓統連大阪本部は3月1日と8日、大阪市内で「韓米日軍事同盟反対、韓米合同軍事演習中止、韓国民衆の尹錫悦(ユン・ソンニョル)罷免決起に連帯しよう! 韓日民衆連帯アクション」を開催した。

大阪本部の金昌範(キム・チャンボム)代表委員は「韓国民衆は尹大統領の罷免を何

としても憲法裁判所で決定させ、韓国を再び民主国家として生まれ変わらせようと集会、デモを毎日行っている。弾劾裁判に、ぜひ注目してほしい」と訴えた。

参加者からアピール。奈良県から参加した森本忠紀さんは「朴槿恵(パク・クネ)を弾劾したキャンドル革命に感動した。韓国民衆は今ふたたび尹錫悦罷免に向けて闘っている。わたしも共に闘いたい」と語った。

ニューカマー同胞の女性は「わたしはセウォル号惨事をみて政治に関心を持った。この場には政治に詳しい人たちがおり、その人たちがいるから、わたしたちがいる」としながら、「より良い社会、未来をつくっていきましょう」と語った。

参加者は「尹錫悦罷免!」などのコールを上げながら、全員で「ニム(君)のための行進曲」「アチミスル(朝露)」を合唱した。

행사예정 行事予定

情勢学習会(神奈川)

日時: 3月16日(日) 午後2時開始 場所: 神奈川本部事務所 内容: 情勢講演(講師: 李俊一(イ・チュニル) 事務長) 主催: 神奈川本部 連絡先: 090-1049-4261(文)

第2回韓統連セミナー2025(大阪)

日時: 3月16日(日) 午後1時30分開場、2時開始 場所: KCC会館 内容: 「韓国の反戦運動と米軍」(講師: 金昌範(キム・チャンボム) 大阪本部代表委員) 参加費: 800円(青年、学生、障がい者500円) 主催: 大阪本部 連絡先: 090-3822-5

7 2 3 (崔)

韓統連セミナー(京都)

日時: 4月6日(日) 午後1時~3時 場所: キャンパスプラザ京都 内容: 「光復(解放) 80周年 韓国大統領選挙と私たちの課題」(講師: 金昌五(キム・チャンオ) 副委員長) 参加費: 1000円 主催: 京都本部(準) 連絡先: 070-5661-0531(李)

■韓統連ホームページ、日々更新しています

韓統連ホームページでは、朝鮮半島情勢や私たちの活動予定・報告などを日々アップしています。また、講演や集会の動画を韓統連ユーチューブチャンネルで配信しています。あわせてぜひご覧ください。



韓統連ユーチューブチャンネル



韓統連ホームページ

韓統連ホームページ

<https://chuo.korea-htr.org/>

韓統連ユーチューブチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCg8NZg52O1VTAMigrXfqiQ>

編集後記

内乱首謀者・尹錫悦のまさかの釈放に国民の怒りは頂点に達しています。釈放を決定した裁判所とそれを容認した検察は、厳しい審判を受けなければなりません。内乱勢力の抵抗は日ごとに激しくなっています。いまこそ団結して罷免を勝ち取りましょう!(李)